

# これまでの経緯について

# これまでの経緯について

平成30年12月21日(金)

**第1回検討会**(関係省庁の取組状況、高速道路インフラ活用の方向性についてご議論 等)

平成31年 1月30日(水)

**第2回検討会**(自工会からのヒアリング 等)

平成31年 3月22日(金)

**第3回検討会**(後続車無人実験の取組状況、中間とりまとめ骨子(たたき台)についてご議論 等)

令和元年 6月24日(月)【本日】

**第4回検討会**(中間とりまとめ(素案)についてご議論)

# これまでの経緯について

## ■ これまでの検討における主なご意見

<b>新しい物流システム</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>○後続無人の隊列走行については、有人から無人への乗換え拠点の配置やドライバーの輸送コストの考え方の検討が必要。</li><li>○海外の事例も踏まえ、マーケットを慎重に分析する必要。</li><li>○隊列の組み方やスケジューリング(パスプランニング)が重要。</li><li>○完全自動運転も視野に入れた検討が必要。</li><li>○車両技術とインフラが連携して新しい物流システムを作っていくことが重要。</li></ul>
<b>高速道路インフラの整備・活用</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>○大型車のニーズが高い区間の課題を整理すること。</li><li>○インフラ整備は時間がかかるため、早めに整備を加速していくことが重要。</li><li>○海外で実施されているランプメータリングを、日本でも導入できないか。</li><li>○物流事業者の意見を取り入れたインフラ整備としていただきたい。</li><li>○道路構造物(区画線、舗装)等のメンテナンスなど基本的な対応も必要。</li></ul>
<b>その他</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>○隊列走行の運行管理システムの構築においては、ETC2.0のデータ等、道路の持っているビッグデータが、物流の効率化、積載率等の向上に活用できるはず。</li><li>○近未来の内容だけでなく、国土計画的なダイナミック発想も必要。</li><li>○隊列走行技術を横展開することも考え、(構内の車の取り回し等)近未来だけではなく、長期展望も含め、ロードマップを示してほしい。</li></ul>